

日 時	2020年8月4日(火) 午後2時00分～午後4時00分
場 所	町田市役所2階 2-2会議室
出席者	<委員>(敬称略) 二井昭佳、室田昌子、中島直人、入江彰昭、小峰光正、佐藤正志、植木宗徳、高橋清人、前田純、山崎浩子、吉崎洋子(11名) <関係者> 株式会社TNA(2名) <事務局> 都市整備担当部長 地区街づくり課職員(10名)
傍聴者	4名

- 会議内容
- あいさつ
  - 会議の成立(定数確認・欠席者の報告)、会議の公開に関する報告(傍聴者報告)
  - 調査・審議事項
    - ・議題19-02号 「鶴川駅周辺再整備事業」における『(仮)鶴川駅コンセプトブック』について
    - ・議題20-01号 「町田市公共事業景観形成指針」2021年度各課事業の協議フローの振り分けについて

- 配布資料
- 次第
  - 参考資料:「(仮)鶴川駅デザインノート」
  - 参考資料:(仮)鶴川駅デザインノート変更点对照表
  - 参考資料:2021年度「町田市公共事業景観形成指針」各課事業の協議フローの振り分け(案)

■議事

- あいさつ
- 町田市景観審議会規則第6条第2項の規定による会議の成立に関する報告  
(過半数以上の出席により、会議の開催について成立)
- 「町田市審議会等の会議の公開に関する条例」第3条の規定による会議の公開に関する報告  
(傍聴者4名)
- 付議事項
  - ・議題19-02号 「鶴川駅周辺再整備事業」における『(仮)鶴川駅コンセプトブック』について

【事務局】

<鶴川駅再整備事業における『(仮)鶴川駅デザインノートについて』説明>

【株式会社TNA】

<『(仮)鶴川駅デザインノート』内容についての説明>

【会長】

前回の審議会のときに、皆様からたくさん意見を頂き、かなり丁寧に、内容も分かりやすくなっている。ご説明いただいた「デザインノート」に関してご質問、ご意見を頂きたい。もう1つ、これを作って終わりではなく、これをどう使って、実際のプロジェクトをうまい方向へ進めていくのかというところが一番大事だと思うので、使い方とか、こういう点は大事に検討を進めていくべきなのではないか、ということがあれば、ぜひいろいろご指摘いただきたい。

【委員】

すごくシンプルになり、読みやすくなった。1点だけ内容で気になったところ、「鶴川駅周辺の変遷」というページで、1ページで非常にシンプルにまとまっているが、若干表現とか数字が気になる。1つは、航空写真の話と、書いてある年代とにずれがある。写真の年代でいいのではないか。あと、2007年の鶴川街道の開通という言葉は、鶴川街道は昔からの道なので、区画整理事業をやって、街路形態が変わっているだけで、鶴川街道が開通したわけではない。それと合わせて、区画整理事業の実施の範囲を点線で囲めば、1982年と2007年の間の変化がよく分かり、誤解なく伝わる。あと、使い方に関する質問だが、最後のページに1冊当たりの単価は、必ず町田市の発行物にはつくものなのか。これは売り物ではない、売ることはできないと、いうことか。

【会長】

最初のご指摘の航空写真の件、前回の審議会で、逆にここが航空写真の年代になっていて、実際いつ開業したかが分からないという指摘があったのでは。

【委員】

1982年のところのタイトルが、土地区画整理事業前と書いてあるが、土地区画整理の換地処分がなされた年だと思うが、違う言い方がないか。

【会長】

確かに鶴川街道は昔からあるので、ここの言葉は変更したほうが良い。それでは1982年と2007年は、実際に起こったというか、言葉に合うものに修正していただきたい。

【事務局】

本自体は販売する予定はない。ホームページでの公開と、地区街づくり課で製本したものを何冊か置いておくという形を考えている。また、1冊あたりの単価は、市の規定により書かなければいけない。

【委員】

今回町田市が発行しているが、本当はこれを考える会などが売って、その売った収益で何かまちづくりに還元できるような取組にできれば、一番役に立つと思う。非常に質が高いので、恐らく書店に置いても売れるのではないか。やはりこの内容は鶴川駅に行ったときに見たいので、デジタルでなくても、この内容をパネルか何かでどこか飾れる場所等があるといいのではないか。

【会長】

最終的に何かしらのサインに用いたり、あるいは工事中の囲いに掲示するなど、いろいろ活用の仕方はあると思う。

【委員】

鶴川駅周辺地図で、凡例で行政界が1点鎖線に、主要の生活道路が破線になっていて、分かりづらい。色を変えるとか、アイコンを変えるとか、何か表示を変えた方がよい。あと同じく地図中の香山緑地の下側の緑のスペースを表記した方がよい駅前道のべ公園という公園だったのではないか。

【会長】

なかなか冊子を作っても、多くの市民の方には簡単には見てもらえないところがあって、例えばこういう工

夫があるのではないか、あるいは今後の計画の中でここはすごく重要なのでこういうことも踏まえて大事にやってほしい、というご意見が頂けるとより活用できる。

**【委員】**

デザインブックなので、いわゆるデザインに従って今後どういうふうに事業が進められていくかということがあると、そのおのおのの段階において、審議会が多少こういうところをこういう時期にデザインを確認するという、そういう考え方もできるのではないか。

**【会長】**

別の事例、南町田の景観形成考え方のときは、市と事業者と市民で協働して進めていく宣言があったが、そういうのに類するもの、あるいは、最初の目的の中に、市民の皆さんと一緒にってとか、市民の皆さんと何か一緒にやるみたいなメッセージが入っていたほうがいいのではないかと、ということですか。

**【委員】**

そうではなく、2025年完成という話だったが、それに向かって段階的に事業を実施されていくが、それがどういうふうに進展していくのかという説明が、このデザインブックにはないので、どこか他にあれば、周りの人も理解しやすいのではないかと。

**【会長】**

スケジュールのタイムラインというところには、2022年が鶴川駅工事着手予定と記載されている。

**【委員】**

ただ、ここにはいつまでに何をやるというのは、書いていない。

**【事務局】**

このデザインブックには入っていないが、鶴川駅周辺再整備基本方針があり、その中には5年後、10年後、15年後という形で、段階ごとの内容は記載してある。

**【委員】**

それは、どこで見られるか。

**【事務局】**

鶴川駅周辺再整備基本方針についてはホームページにも載せてあり、地区街づくり課にも何冊か保管してある。

**【委員】**

一般の方には、こういう動きがあるという情報はなかなか伝わらない。それがA4、1枚の紙でもいいが、大雑把にこういうことがあり、いつからスタートし、最後はこうなりますという、楽に配れるようなパンフレットがいろいろなところに置いてあったら分かりやすい。

**【事務局】**

鶴川駅周辺再整備基本方針については、今現在、鶴川ポプリホール、その他いろいろなところに置いてある。策定するときには、地元の皆さんと合意形成を図りながら、確定させていただいた。できた後には、鶴川地域の各町内会とか、商店会には配らせていただいた。本編の概要版は気軽に配っている状況ではある。

**【委員】**

税金も使う大きなプロジェクトで、鶴川駅周辺の人たちにはいろいろな情報が伝わっていると思うが、町田市民全体に鶴川周辺はこうなっていくというお知らせをする必要があるのではないかと。市の広報とか、パネルみたいなものを市庁舎の1階とかに置いて、広く市民の皆さんに関心を持っていただくことが必要ではないのか。あとは、町田市と東京都、それから事業者の方、市民の方とのコンセプトワークというのは、これからも続けていく必要があるのではないかと。これができた段階で、これから具体化させていくわけなので、ぜひ地元

のためになるような道筋を、これをスタートにして作っていただきたい。

**【会長】**

具体的なアイデアも頂いたので、市役所の展示等、どういう可能性があるか検討いただきたい。また、最初の方に、これまで市民の皆様と議論しながらやってきたことは、継続していくこともうたっていただくと、今頂いた趣旨も反映できる。

**【委員】**

誌面の中で伝えられるものは、限りがあると思うので、その中にQRコードみたいなものを仕込んで、ホームページにリンクして飛ばすとか、それによってリアルタイムの情報が得られることもある。配るのであれば、情報が広げられるようなことをしていただけると、興味がある人はどんどん情報が取得できて、一般の方にも非常に親しみが持てる、興味が持てる、そういった資料になるのではないかな。

また、趣旨としてにぎわいということテーマに記載しているように見受けたが、ただ写真を見ると、ちょっと寂しい、がらんとしているような写真が入ってしまっているので、にぎわいということをもっと前面に出して、楽しそうな雰囲気を出せるといい。平面図にしても、実際に写真とか、視覚的に分かるようなものでアプローチしていったほうが分かりやすい。

**【委員】**

大変すばらしいものだと思って拝見していたが、最初のところに、全体の構成を分かりやすく書くと、これを初めて見た方が非常に分かりやすくなる。例えば、全国の方からアイデアをもらったアイディアコンテストと、地域の方々がアイデアをいろいろ出し合った鶴川駅を考える会があるが、それぞれの役割分担や、性格の違いが非常にあり、冊子の最初のところに紹介していただくと、初めて見た人は、「この冊子はそういう形で作られたのだ」と、構成がはっきり見えて理解しやすい。

**【会長】**

図みたいなものを入れるイメージか。

**【委員】**

目次があるので、フローチャートではないが、それぞれその中にこんなことが書かれていますということを伝えると、階層構造的が分かってよい。

**【会長】**

今は目次が、普通に並んでいるので、本の構成の示し方を一工夫してもらおうと思う。

**【委員】**

みんなの鶴川駅プロジェクトという鶴川駅を考える会の主催者は、町田市と小田急電鉄と株式会社TNA、そして地域の人々という形の関わり方が書いてあるが、このコンセプトブックそのものには、小田急電鉄はどういう関わり方をされているか。

**【事務局】**

このコンセプトブックの作成に際しても、小田急電鉄と一緒に、作成している。

**【委員】**

この最後のページに発行者は、町田市となっていて、企画編集は武井さん、鍋島さんと個人の名前が出て、TNAという株式会社の名前が出ているが、小田急電鉄はここには入らないのか。鶴川駅のコンセプトブックであり、小田急電鉄の鶴川駅であるので、小田急電鉄はどういう関わり方をしているのか気になる。共催という形なのか、協賛という形なのか。

**【事務局】**

一緒に行っているので、共催である。

【会長】

発行者の発行というのは、この印刷とか、作成の発行という意味で使っているか。

【事務局】

その通りである。

【会長】

そうすると、ご指摘いただいたように、小田急電鉄が全然関わっていないと見えるのはよくないので、どこかに書けるところはあるか。鶴川駅を考える会のところに、町田市と小田急電鉄共催みたいなことは書けるのか。

【事務局】

鶴川駅を考える会のところには記載がある。

【委員】

考える会のメンバーとして主催者欄に入っているが、このデザインブックそのものには入らなくていいのか。

【委員】

小田急電鉄をデザインブックの発行者ということで最終ページに入れるということは、市民目線で見ると、一企業がその市に関わって動かしているような感じになり、おかしいのではないか。あくまでも発行はやはり市だと思う。

【会長】

発行者としては市とする。著作として、どの本にも作った人間の名前は出ている。

【委員】

後づけか何かを書いてあるとは思う。発行者の町田市が大きく出ていないとおかしい。

【会長】

では、最終ページの情報量は一緒で、少しレイアウトだけ調整させていただく。

【委員】

その発行者のところが、「東京都町田市」となっているが、「東京都」を入れなくてもいいのではないか。通常町田市は町田市でいろいろな印刷物を作っている。

【会長】

ご指摘どおりにしたい。

【委員】

武井さんと鍋島さんという方は、考える会の方なのか。

【会長】

株式会社TNAの方で町田市民ではない。

【委員】

株式会社TNAの方の個人名はこのガイドブックにはどこにも出ていない。最後に個人名が出てくるのは、違和感がある。株式会社TNAが委託して受けた編集企画なのであれば、株式会社TNAでいいのではないのか。個人名が出てくると、市民の会の代表かそういう方かと誤解を与えるのではないか。

【会長】

発行者の部分はいただいた意見を元に、検討する。

頂いた意見をまとめると、言葉の表現や、図中の線の引き方など、多少分かりにくいところがあるが、全体としては、前回より分かりやすくなっているということによろしいか。そのほか、文字などの修正以外に、QRコード等、気軽に市のホームページなどにアクセスできる仕掛けも検討していただく。また目次のところでこのデザインブックの構成が分かるように、修正できるといい。さらに発行者の部分は、東京都を削除し町田市のみの

表示にするなど、奥付の「発行：町田市」などのサイズ感を調整していただく。

もしよろしければ、この後の修正は会長一任で責任を持ってチェックするという形でもよいか。皆さんから頂いた意見が反映されているかどうかを確認し、最終版とさせていただきます。

今後の活用方法だが、どういうふうによくの方に見てもらおうかというアイデアとして、例えば市庁舎にパネル展示をする、あるいは鶴川駅自体にも完成後、あるいは工事中、鶴川に住んでいる方に鶴川の歴史を知るきっかけとなるサインとして活用するのもいいのではないかと、というご意見を頂いた。

今回のプロジェクトは町田市がいて、小田急の中にも鉄道系と商業ビル系の部署があって、それから地元の商工会があって、町田市も道路系の部署と、公園系の部署がまた絡んでくるということで、非常にいろいろな関係者が意思統一しながら進めないといけないプロジェクトで、特に自由通路から下の交通ロータリーのほうに下りてくるところは、途中で管理者が切り替わるため、デザイン調整を取る体制をできるだけ取ってほしいと思う。

先ほど紹介した南町田のプロジェクトのときも、そういった観点で、景観審議会の中に専門部会を立ち上げ、そこで町田市の担当者と東急電鉄の担当者、開発の担当者の方も一緒に同席し、お互いの調整を取りながら進めていった。景観審議会はアドバイズレベルではあったが、管理者の違う空間がシームレスにつながっているところでは、貢献できたところもあると思う。実際の関係者が多くなっていく中で破綻のないように、市民から見ると管理者は違っても1つの駅前空間であることには変わらないので、その担保を取れる仕組みを検討いただけると良い。

#### 【事務局】

<町田市公共事業景観形成指針における2021年度各課事業の協議フローの振り分けについて、説明>

#### 【事務局】

<「原町田大通り憩いと賑わい空間を創造するプロジェクトの事業概要」について、説明>

#### 【会長】

この景観審議会では、最終的にはこの協議フローがこの振り分けでいいか、あるいはBだけCに上げたほうがいいのかということも含めて意見をまとめていきたい。今の説明の中で、事業についてここが分からなかったのを教えてほしいなど、あるいはこういう点を重要視してプロジェクトを進めるべきだなど、ご意見を頂きたい。

#### 【委員】

原町田大通りプロジェクトは非常に楽しそうで、今後を期待させ、面白いなと思っているが、全面封鎖のイメージも書かれていたが、そこへ向かっていくような道筋があるのかどうか。また交通のフローについては、既にこの前段階で実験が行われているのか。かなり渋滞が生じるなどの交通量の問題に対して、このプロジェクトが出来るかどうかの前提条件となっていると思うので、お話を伺いたい。

#### 【事務局】

1つ目の全面通行止めの議論だが、もともとは毎週末、原町田大通りを全面通行止めにして、その中でにぎわいを作っていこうと考えていたが、かなりハードルが高いということが警察との協議から分かった。公安の決定が必要であり、一度決定されてしまうと解除するのにかなり時間がかかり、人が足りないとか、お金が足りないという理由では解除できない問題があった。これは、地域の住民たちにとって大きなリスクであるため、説明をしなければいけない。今の4車線道路の交通量を考えたときに、警察から全面を通行止めにする方向よりも、車両の交通量が少ない外側の車線を歩道にして、そこで憩いの空間などを作っていっただほうが現実的ではないかという意見もいただき、今はこの歩道拡幅の方針で考えている。

あとは交通に影響がないかということについて、警察とも協議しながら、できれば今年度中に社会実験とい

う形で歩道を拡幅し、交通渋滞が起きないかどうかという検証をしていきたい。

**【委員】**

もう1点は、最初の目的は道路が街を分断する要素になっているので、道路の両側を近づけたいということだったと思うが、今回の取組で近づくのか。結局道路が2車線残って、その渡る部分というのがどうしても現状のままだとなかなか渡りにくいのではないかと思うが、横断箇所を増やすとか何か工夫があるのか。

**【事務局】**

横断箇所を増やすことは考えていないが、4車線がかなり距離的に遠いということ、車道を歩道の空間にし、人中心、歩行者優先のまちづくりをしていきたいので、4車線を2車線にして、距離的に近づけるという取組である。

**【委員】**

建物と歩道との関係はとてもよくなるが、互いの関係、東西を近づける工夫がないと、どちらも車道に背を向けてしまいそうに感じられ、それが当初の目的から、少し違ってきてしまうのではないかと懸念している。

**【事務局】**

車道に背を向けてしまうというのも、車が突っ込まないだとか、そこに何を置くかによっても違ってくると思うので、そこは安全を確保しながらも、できるだけ近づけることを、取組として進めていきたい。

**【会長】**

いきなり車をなくすのは現実的ではない。先ほどの質問にも絡むが、現在の計画のように2車線にして距離を近づけるのが完成形なのか。それともさらに交通がうまくさばけるようになったときに、車をなくすことを、完成形にしているのか。

**【事務局】**

都市再生整備計画の計画期間である3ヶ年では、歩道沿いの賑わいを強化し、道路両側の距離感を近づけたイメージを完成形と見据えている。将来的には、芹ヶ谷公園までの動線等も考慮して人が主役のウォークアブルな通りの実現を目指している。

**【委員】**

車道を6メートルにするということだが、いろいろなイベントで今までも使ってきているが、そういったイベントというのは継続されるのか。

**【事務局】**

イベントが継続してできるようにしていきたい。歩道の範囲についても今後の調整なので、イベントができるスペースを確保しながら、やっていきたい。

**【委員】**

現状の原町田大通りは4車線あるので、バスが止まっても一般車が通行できるが、2車線にしたときの弊害とか、今度バス利用者が、かえって不便を担ってしまうというリスクもあるのか。

あと、Bフローにした4案件について、本来ならAフローだが、子どもに関することなので総合的に見てB案件にしたということだったが、「総合的に見て」という言葉の基準が分からない。例えば子どもに関すること、障害者に関することは面積が小さくてもBフローにするというような役所内での内規があって適用しているのか、それともその時々判断でやっているのか。

**【事務局】**

まずは1点目。バスについては、バスの事業者と調整中である。今、提示したのは案の状態、これからバス事業者とも調整を行いながら作ってきたい。

2点目、総合的な判断という基準に関して、そちらは事業によって個々で判断をしている。子どもクラブ整備

事業は、地域とのワークショップなどを行い、市民の皆様の意見を伺いながら、子どもクラブの整備に反映させていく予定としている。しかし景観、色彩の観点から、必ずしも頂いた意見が町田市を目指す景観の色彩基準に、合致してくるとは言い切れない。そういう観点で皆様の意見を生かしながら、事業に反映していくことは、事業課だけでは判断し難いため、学識経験者である景観アドバイザーの協議を入れるBフローとさせていただいている。

その他のつくし野の小学校、学童保育クラブに関しては、個々の面積自体は大きくないが、やはり小学校という規模の大きさの建物に準ずる外壁の塗り替えであり、景観に与える影響というものが、非常に地域において大きいのではないかという判断をし、AではなくBという形で判断をさせていただいた。

**【委員】**

総合的判断というのであれば、その中にある程度一定の基準がないと、担当者が代わるたびに基準が変わってしまう。市役所内部で、子どものものについてはフローを上げる基準があるのなら作っておいたほうがいい。

**【会長】**

フローによって、建物面積の基準の数値が決まっているが、ただ、それだけに準じてしまうと、規模は小さいが、極めて重要な案件にもかかわらずBフローに入ってしまう事業が多分に出てくることもある。内部で判断するときに、内規みたいなものを用意しているのか。

**【事務局】**

内規として持っていないが、地域のワークショップなどを行っている案件では、意見を反映させるところの難しさなど、適宜景観アドバイザーを入れることを検討し、判断基準となる事柄については、組織の中で継承している。

**【会長】**

あまり内規を作ってがちがちに決めないほうが、議論がいろいろできるというメリットもある。

**【委員】**

小学校の防水改修工事の外壁の色を決めるのには、校長先生と地区街づくり課で小学生が好む色を選んだということだが、参考までにどんな色なのか聞きたい。

**【事務局】**

学校側から既存の今の色でいいと言われることが多いので、その色で示したりもする。あとは昇降口が多く、学年の別が分かりづらいなどの問題を頂いたりする場合は、小学校の低学年の昇降口の色を赤に、高学年のほうを黄色にしたりする提案をしている。その都度、学校の先生、事業担当課の希望を聞きながら、決めていく。

**【会長】**

確かに案を少し出して選んでもらう感じがいいかもしれない。

**【委員】**

原町田大通りのにぎわいプロジェクトに関する意見だが、こういった非常に楽しいプロジェクトはよいと思う。原町田大通りのにぎわいを出せるということで、いろいろな仕掛けをこれから行っていく場合に、そこにいろいろな人が全部集まってきて、集約されるパターンと、周りの回遊性を高めていくパターンと、その2つだけではないかもしれないが、その辺はどんな方向性で考えているのか。

**【事務局】**

方向性としては、2つ目の回遊性を高めるという趣旨のほうが強い。原町田大通りだけで何かやろうというのではなくて、この中心市街地全体のプロジェクトを見たときに、通りごとの性質とか、役割分担がある。この計画を作るときに、町田駅周辺は休憩スペースが少ないという声も頂いたので、ここでイベントをやっけてにぎわいを作るというよりは、むしろ憩い、休憩のスペースを作って、中心市街地全体で回遊性を高めていくほうが強



いので、意味合いとしては後者のほうになる。

【委員】

実際どのくらい人が集まってくるかによっても変わってくるが、中心市街地全体で盛り上がってくればいいが、もし仮にそうでなかった場合、思ったように回遊が高まらないことになる。中心市街地については、いろいろな組織があるので、想定通りいかなかった場合も始めから考え、十分配慮し進めていった方がよい。

【会長】

歩いて楽しめるというのは、回遊性をイメージしていると思うが、あまりそこが濃い文字とかで出ていない。

【委員】

魅力的だなと思ったのは、大通りは芹ヶ谷公園がすぐ近くにあって、駅と芹ヶ谷公園をつなぐ役割も大きく、原町田大通りをプロジェクトすることによって、いざなっていくことができると思う。プロジェクトのテーマで水と緑の新たな都市空間づくりのプロジェクトとあり、原町田大通りの憩いの空間づくりの中にも、緑豊富な景観づくりというのが目標としても書かれているので、芹ヶ谷公園とのつながりを意識されて、商店街、大通りの名前に公園通りとか、あるいはパークアベニューとか、何かしら緑とか公園に関わるようなサブタイトルを大通りにつけられるようなことも、工夫次第では芹ヶ谷公園にもっと多くの人に、芹ヶ谷公園そのものの存在を知ってもらおうというものもある。町田の駅から10分以内にあんなに緑豊かな公園があるというのは大きな財産、宝物であり、大事にしてほしい。パークアベニューというのは、公園通りの役割を原町田大通りもつけられたらなと感じた。

【会長】

それでは、原町田大通りの進め方について、一つは、バス利用者、車利用者についても確認してほしいということで、交通の社会実験の実施が考えられるということ。二つ目は、地域全体の回遊性も見越した観点でやっていくことが非常に重要であり、特に芹ヶ谷公園を含む、地域一体がうまく機能するような仕組みを考えてほしいということ。いずれも町田の中の非常に大事なプロジェクトだという認識の下でのアドバイスであった。

そのほか、子どもに絡む事業をBフローにしたことについて、もう少し基準があっても良いという意見もあったが、内部的に判断基準を継承しているということだった。今日出ているものは、Cフローが1つで、それが原町田大通りに関するもの。それからBフローが4つで、いずれも小学校の学童、子どもクラブといった子どもに関する施設。そのほかAが数は多いのですが、オリンピックに関するフラッグということで、今回の振り分け案で事務局案どおりでもよろしいか。

(「異議なし」の声)

【会長】

それでは、基本的にこちらの振り分け案で、審議としては承認する。

— 了 —